

# 新年のごあいさつ



美郷町長

## 松田 知己

新年おめでとうございます。激動と言っても過言ではない昨年を振り返りながら、皆様におかれましては新たな決意と意欲をもって、良き新春をお迎えのことと存じます。

私も、いろんなことがあった平成二十年を心静かに振り返るとともに、迎えた平成二十一年、引き続き望む美郷の姿に着実に近づくとするよう、決意と意欲を新たにしているところです。

さて、その二十一年、美郷町にとって重要な位置付けの年になります。いや、そういう年にしたいと私は思っています。

と言いますのも、先月号の就任あいさつでも述べましたが、二十一年は、融和を大切にするために積み残してきた課題、学校を含む公共施設

の再編統合に実践的に取り組む年になるからです。現在のところは、皆さんお分かりのとおり、一部で老朽化等の関係から廃止や転用した施設があります。ほとんどは合併前と同じ姿です。

しかし、例えば役場庁舎は、行政サービスを円滑に進めるには、一つの庁舎に集約した方が間違いなく効率的です。また、各種施設は、多い方が便利に決まっています。反面、修繕を含めてかなりの維持管理費が必要で、限られた予算内で政策経費を確保するには、地域バランスに留意しながら再編統合することが不可欠です。

一方、町づくりの面でも、これまで種蒔きをしてきた取り組みに精力的に力を注ぐ年にしたいと思いま

す。まずは交流の促進です。農業振興など地域活性化を目的とした東京都大田区との交流をはじめ、他地域との交流も拡大するよう努めてまいります。また、美郷のイメージづくりとして水環境の保全に力を入れ、資源保全のほか観光促進も意識してまいります。さらに、協働参画の地域づくりの手始めとして、ボランティア・センター的な機能整備に取り組むほか、引き続き地販地消の取り組みなどを通じ、農・商・工の連携による産業振興に取り組んでまいります。また、二十一年は合併五周年となることから、芸術文化的な取り組みを含めて記念行事を企画し、皆さんで元気を出してまいりたいと考えております。

いずれ、こうした取り組みには、

私ども行政関係者が真剣に取り組むことはもとより、皆さんのご理解とご参加が必要となります。皆さんとともに、美郷の形づくりに取り組みたいと思います。

先日、「冬だなあ」と思う曇天のものと車を運転していたら、雲の切れ間に一瞬、澄んだ青空が顔を覗かせました。理屈ではない「元氣とやる氣」をもらいました。どんな曇天でも、必ずその上には常に青空がある。確かに財政環境も行政環境も、より厳しさを増す状況ですが、「いやー！必ず青空がある」、そんな気持ちで平成二十一年、力の限りがんばりますので、皆さんもどうか一緒にがんばってください。心からお願いを申し上げます。新年のあいさつといたします。



# 新年のごあいさつ



美郷町議会議長

## 伊藤 福章

新年明けましておめでとうござい  
ます。

平成二十一年の年頭にあたり、謹  
んで新春のご挨拶を申し上げます。

本年も決意を新たに、住民自治の  
振興、発展に向け、更に精進してま  
いりたいと存じますので、どうぞよ  
ろしくお願い申し上げます。

昨年は安全、安心の社会はどこ  
へ、最近にない不安と心配の一年で  
ありました。

まずは、サブプライムローンから  
端を発し、百年に一度とも言われて  
いる世界的な金融危機と景気の失速  
により、景気後退が一段と増した日  
本経済、原油の高騰による暮らしへ  
の影響、いまだ先の見えない食の問  
題、多岐にわたる偽装問題、私たち

には考えられないような無差別殺傷  
事件、地方が疲弊しているのに波乱  
含みの国会、六月、七月の岩手県内  
陸南部、沿岸北部を震源とした地震  
被害など、暗雲、暗影が交差する中  
でしたが、光明を差す話題もありま  
した。

日本の輝かしい未来を予感させる  
宇宙ステーション「きぼう」の建設を  
はじめ、一昨年の秋田わか杉国体に  
続く国の大きなイベント、県立北欧  
の杜公園を会場に両陛下をお招きし  
ての全国植樹祭、北京五輪での日本  
勢の活躍やパラリンピック車椅子バ  
スケットボールにおいて、勇気と感  
動を与えていただいた本町出身の藤  
井新悟選手の主将としての活躍など  
美郷町の誇りとするところでした。

さて、合併後、年間予算を計上し  
て四年、一般会計当初予算で、これ  
まで十四億も減少しており、町の人  
口規模から見ましても合併特例債の  
期限後は、七十億から八十億くらい  
の予算規模での町づくりが予想され  
ます。

特例債期限も残すところ約六年、  
施設の統廃合を含め、更なる行財政  
改革に一層のスピードをもって取り  
組む必要があります。

議会では、このことを踏まえ一昨  
年の十一月より議会改革、議会全員  
協議会において議員間で幾度となく  
議論を繰り返し、町民の皆様方へ意  
思表示を明確に示したところです。  
本年度より定例会、臨時会、三常  
任委員会の費用弁償の廃止、二十一

年九月の一般選挙から合併協議会で  
決定された、議員数二十二名から四  
名削減し十八名とする条例を全会一  
致で可決しました。

町民の皆様には、町政に声が反映  
されにくくなることなどが無いよ  
う、住民と議会との懇談会の充実を  
糧とし、議員定数の減少がかかる機  
能の行使や責務の遂行に障害となら  
ないよう研鑽<sup>けんさん</sup>のもと、今後も町民に  
応えられる議会、信頼される議会に  
努めてまいります。

本年も、町民皆様の格別のご理解  
とご協力をお願い申し上げますと  
もに、厳しい経済状況の続く中では  
ありますが、皆様のご健勝ご多幸を  
ご祈念申し上げ新春のごあいさつと  
いたします。

